



TITLE:

記事特別講演会

AUTHOR(S):

山田, 浩之; 小野, 一一郎; 下谷, 政弘; 八木, 正

CITATION:

山田, 浩之 ...[et al]. 記事特別講演会. 経済論叢 1984, 134(1-2): 124-124

ISSUE DATE:

1984-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134035>

RIGHT:

經濟論叢

第134卷 第1・2号

| | | |
|-------------------------------------|------|-----|
| ニコルソンの原価管理思考について…………… | 野村秀和 | 1 |
| 日本曹達から日曹コンツェルンへ…………… | 下谷政弘 | 28 |
| ウォルワース会社における予算 システムの確立…………… | 斎藤雅通 | 57 |
| 経済民主主義と社会主義…………… | 古河幹夫 | 84 |
| 1820年代末フランス製鉄業における資本・ 賃労働関係…………… | 清水克洋 | 100 |

経済学会記事

昭和59年7・8月

京大経済學會

記 事

特 別 講 演 会

京都大学経済学会の主催により、昭和59年6月1日(金)午後2時から5時まで、米国ペンシルバニア大学名誉教授 Britton Harris 氏の講演会が開催された。ハリス教授は1964年から最近までペンシルバニア大学の教授であって、とくに1972年からは UPS Professor of Transportation Planning and Public Policy のチェアを占め、また1977年から81年までは School of Public and Urban Policy の Dean であった。都市経済、都市計画、交通政策にまたがる分野で活躍してきた学者であり、日本の留学生で同教授の指導を受けた者も少なくない。

ハリス教授の講演テーマは、「住宅立地に関する経験モデル」であったが、最も基礎的なモデルとしてハーバート・スティーブンス・モデルを取り上げて、その要点を明らかにした上で、イングラム、ケイン等による National Bureau of Economic Research モデルへの発展を展望し、さらに最近発達しつつある単純効用モデルについて説明をされた。また、ロジット・モデルとの関係についても言及され、全体として、住宅立地モデルの問題点・発展方向について示唆に富む報告が行われた。

講演の後、活潑な質疑応答が行われたが、工学部土木工学教室より多数の参加があり、大阪大学、香川大学、岐阜大学等からも参加者があって、極めて盛会であった。

(山田浩之)

定 例 研 究 会

1984年度第1回の定例研究会が、新会員の歓迎会を兼ねて、去る6月7日午後2時より経済学部特別講義室において開催された。

報告者は本学部の大学院生塩地洋氏と講師 HORIOKA, CHARLES 氏であった。それぞれの報告のあと、50名近くの出席者から活潑な質問・討論が行なわれ盛会のうちに終了することができた。

また、今回は報告会場の準備、当日の会場運営などに御尽力頂いた編集室の石原文蔵氏、資料室の細川元雄・桜田忠衛両氏に心からお礼申し上げたい。

(研究委員 小野一郎・下谷政弘、院生委員 八木 正)